

レディーミクストコンクリート配合計画書

2025 年 4 月 1 日

広島県生コンクリート工業組合 殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社
 広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5
 TEL : (0846) 45-5001
 FAX : (0846) 45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工 事 名 称	HP掲載用2025
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	3月下旬～7月上旬 9月中旬～12月中旬 標準配合
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリ反応抑制対策の方法	B B
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度 ・ 圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	60
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下	単位セメント量の 目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	cm
空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %	
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %	

骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³		微粒分量 の範囲 %
				区分	試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	2.5	2.74		2.58	3.0±2.0
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	15～ 5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5

混和剤①	製品名	シーカブ [®] TR15L	種類	AE減水剤	Na ₂ Oeq %
混和剤②	製品名				
混和剤③	製品名				

細骨材の塩化物量 ①	水の種類	上水道・上澄水	目標スラッジ 固形分率	%
------------	------	---------	-------------	---

回収骨材の使用方法	細骨材	粗骨材	スラッジ 水の使用方法
-----------	-----	-----	-------------

配 合 表 (kg/m³)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
262			153	810			422	369	262	2.88			
水セメント比			58.5 %	水結合材比			%			細骨材率			43.9 %
粗骨材混合比(容積) 砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25													

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の規格区分：J I S 該当品各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中
 超えたとき又は下回ったとき。
 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の 目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	cm
空気量	4.5 %				

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0(%)

配合強度(m)
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。
 $m = \alpha \times SL = 29.3$
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm²)とします。

水セメント比(W/C) W/C = 58.783(%)
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783(%)
 W/C = 58.5(%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 153(kg/m³)

単位セメント量(C) C = 262(kg/m³)
 $C = W \div W/C \times 100 = 153 \div 58.5 \times 100 = 262(kg/m^3)$
 $V_c = C \div \rho_c = 262 \div 3.04 = 86(l/m^3)$
 C = 262(kg/m³)
 Vc = 86(l/m³)

粗骨材かさ容積(Q/m³) 当社社内規格値より V = 665(l/m³)

単位粗骨材量(G)
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(l/m^3)$
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(l/m^3)$
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(l/m^3)$
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(l/m^3)$
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$
 Vg = 402(l/m³)
 Vg1 = 161(l/m³)
 Vg2 = 141(l/m³)
 Vg3 = 100(l/m³)
 G1 = 422(kg/m³)
 G2 = 369(kg/m³)
 G3 = 262(kg/m³)

単位細骨材量(S) Vs = 314(l/m³)
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$
 $= 1000 - (153 + 86 + 402 + 45) = 314(l/m^3)$
 $S = V_s \times \rho_s = 314 \times 2.58 = 810(kg/m^3)$
 Vs = 314(l/m³)
 S = 810(kg/m³)

細骨材率(s/a) s/a = 43.9(%)
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 314 \div (314 + 402) \times 100 = 43.9(%)$
 s/a = 43.9(%)

単位混和剤量(Ad) Ad1 = 2.88(kg/m³)
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 262 \times 1.100 \div 100 = 2.88(kg/m^3)$
 Ad1 = 2.88(kg/m³)

配合表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③	
262			153	810			422	369	262	2.88			
水セメント比			58.5 %	水結合材比						細骨材率			43.9 %

レディーミクストコンクリート配合計画書

2025 年 4 月 1 日

広島県生コンクリート工業組合 殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社
 広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5
 TEL : (0846) 45-5001
 FAX : (0846) 45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工 事 名 称	HP掲載用2025
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	6月上旬～10月中旬 夏期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼 び 強 度	スランプ [°] 又はスランプ [°] フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB

※ 必須	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリ反応抑制対策の方法	BB
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度 ・ 圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低
			水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	60
	水の種類	使用材料欄に記載	単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m ³
	塩化物含有量	0.30	流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	cm
	呼び強度を保証する材齢	28		
	空気量	4.5		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密 度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O _{eq} %	
混和材①	製品名		種 類		密 度 g/cm ³		Na ₂ O _{eq} %	
混和材②	製品名		種 類		密 度 g/cm ³		Na ₂ O _{eq} %	

骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³		微粒分量 の範囲 %
				区分	試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル [°] 法	2.5	2.74	2.58		3.0±2.0
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル [°] 法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル [°] 法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタル [°] 法	15～ 5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5

混和剤①	製品名	シ-ホ [®] ワリス15L	種 類	AE減水剤	Na ₂ O _{eq} %	
混和剤②	製品名		種 類		Na ₂ O _{eq} %	
混和剤③	製品名		種 類		Na ₂ O _{eq} %	

細骨材の塩化物量 ^①	水の種類	上水道・上澄水	目標スランプ [°] 固形分率	%
-----------------------	------	---------	--------------------------	---

回収骨材の使用方法	細骨材	粗骨材	スランプ [°] 水の使用方法
-----------	-----	-----	--------------------------

配 合 表 (kg/m³)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
267			156	797			422	369	262	2.94			
水セメント比			58.5 %	水結合材比			%			細骨材率			43.5 %
粗骨材混合比(容積) 砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25													

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の
 各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中
 超えたとき又は下回ったとき。 規格区分： J I S 該当品
 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ [°] 又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	cm
	空気量	4.5 %			

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0(%)

配合強度(m)
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。
 $m = \alpha \times SL = 29.3$
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm²)とします。
 $\alpha = 1.22$
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783(%)
 W/C = 58.5(%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 156(kg/m³)

単位セメント量(C)
 $C = W \div W/C \times 100 = 156 \div 58.5 \times 100 = 267(kg/m^3)$
 $V_c = C \div \rho_c = 267 \div 3.04 = 88(Q/m^3)$
 C = 267(kg/m³)
 V_c = 88(Q/m³)

粗骨材かさ容積(Q/m³) 当社社内規格値より V = 665(Q/m³)

単位粗骨材量(G)
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(Q/m^3)$
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(Q/m^3)$
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(Q/m^3)$
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(Q/m^3)$
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$
 V_g = 402(Q/m³)
 V_{g1} = 161(Q/m³)
 V_{g2} = 141(Q/m³)
 V_{g3} = 100(Q/m³)
 G₁ = 422(kg/m³)
 G₂ = 369(kg/m³)
 G₃ = 262(kg/m³)

単位細骨材量(S)
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$
 $= 1000 - (156 + 88 + 402 + 45) = 309(Q/m^3)$
 $S = V_s \times \rho_s = 309 \times 2.58 = 797(kg/m^3)$
 V_s = 309(Q/m³)
 S = 797(kg/m³)

細骨材率(s/a)
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 309 \div (309 + 402) \times 100 = 43.5(%)$
 s/a = 43.5(%)

単位混和剤量(Ad)
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 267 \times 1.100 \div 100 = 2.94(kg/m^3)$
 Ad₁ = 2.94(kg/m³)

配合表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
267			156	797			422	369	262	2.94		
水セメント比		58.5 %		水結合材比			%			細骨材率		43.5 %

レディーミクストコンクリート配合計画書

2025 年 4 月 1 日

広島県生コンクリート工業組合

殿

製造工場名 中岡生コンクリート株式会社
 広島県東広島市安芸津町木谷乙3517-5
 TEL : (0846) 45-5001
 FAX : (0846) 45-5720

配合計画者名 中岡 優 司

工 事 名 称	HP掲載用2025
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	11月中旬～4月下旬 冬期修正標準配合
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼 び 強 度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	B B
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度 ・ 圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	60
				単位水量の目標値の上限	kg/m ³
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位セメント量の 目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	cm
呼び強度を保證する材齢	28 日				
空気量	4.5 %				

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %			
混和材①	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %			
混和材②	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq %			
骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³		微粒分量 の範囲 %	
				区分			試験方法	絶 乾		表 乾
細骨材	①	砕砂	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	2.5	2.74		2.58	3.0±2.0
	②									
	③									
粗骨材	①	砕石4020	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	40～20	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	②	砕石2010	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	20～10	58.0	2.61	2.62	0.5±0.5
	③	砕石1505	東広島市黒瀬町小多田産	A	モルタルバー法	15～ 5	56.0	2.61	2.62	0.5±0.5
混和剤①	製品名	シーカボナリス15L		種 類	AE減水剤		Na ₂ Oeq %			
混和剤②										
混和剤③										
細骨材の塩化物量 ①			水の種類			水道・上澄水		目標スラッジ 固形分率		%
回収骨材の使用方法		細骨材	粗骨材		スラッジ水の使用方法					

配 合 表 (kg/m³)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
256			150	823			422	369	262	2.82			
水セメント比			58.5 %	水結合材比			%			細骨材率			44.2 %
粗骨材混合比(容積)				砕石4020A:砕石2010A:砕石1505A=40:35:25									

備考 配合切り替え日は、工程検査で測定したコンクリート温度が別紙表中の各予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中
 超えたとき又は下回ったとき。
 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

規格区分: J I S 該当品

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及びび/又は 水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスランブ又は スランブフローの増大量	cm
	空気量	4.5 %			

変動係数(V) 当社社内規格値より V = 9.0(%)

配合強度(m)
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.16$
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.22$
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。
 $m = \alpha \times SL = 29.3$
 以上より、配合強度(m) = 29.3(N/mm²)とします。
 $\alpha = 1.22$
 $m = 29.3(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)
 $29.3 = -15.1 + 26.1 \times C/W$ より W/C = 58.783(%)
 W/C= 58.5(%)

単位水量(W) 当社社内規格値より W = 150(kg/m³)

単位セメント量(C)
 $C = W \div W/C \times 100 = 150 \div 58.5 \times 100 = 256(kg/m^3)$
 $V_c = C \div \rho_c = 256 \div 3.04 = 84(l/m^3)$
 C = 256(kg/m³)
 Vc= 84(l/m³)

粗骨材かさ容積(Q/m³) 当社社内規格値より V = 665(l/m³)

単位粗骨材量(G)
 $V_g = V \times \text{実積率} \div 100 = 665 \times 60.5 \div 100 = 402(l/m^3)$
 $V_{g1} = V_g \times (40 \div (40 + 35 + 25)) = 161(l/m^3)$
 $V_{g2} = V_g \times (35 \div (40 + 35 + 25)) = 141(l/m^3)$
 $V_{g3} = V_g - V_{g1} - V_{g2} = 100(l/m^3)$
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 161 \times 2.62 = 422(kg/m^3)$
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 141 \times 2.62 = 369(kg/m^3)$
 $G_3 = V_{g3} \times \rho_{g3} = 100 \times 2.62 = 262(kg/m^3)$
 Vg= 402(l/m³)
 Vg1= 161(l/m³)
 Vg2= 141(l/m³)
 Vg3= 100(l/m³)
 G1= 422(kg/m³)
 G2= 369(kg/m³)
 G3= 262(kg/m³)

単位細骨材量(S)
 $V_s = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_g + V_{air})$
 $= 1000 - (150 + 84 + 402 + 45) = 319(l/m^3)$
 $S = V_s \times \rho_s = 319 \times 2.58 = 823(kg/m^3)$
 Vs= 319(l/m³)
 S = 823(kg/m³)

細骨材率(s/a)
 $s/a = V_s \div (V_s + V_g) \times 100 = 319 \div (319 + 402) \times 100 = 44.2(\%)$
 s/a= 44.2(%)

単位混和剤量(Ad)
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 256 \times 1.100 \div 100 = 2.82(kg/m^3)$
 Ad1= 2.82(kg/m³)

配合表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③									
256			150	823			422	369	262	2.82											
水セメント比			58.5	%			水結合材比			%			細骨材率			44.2			%		